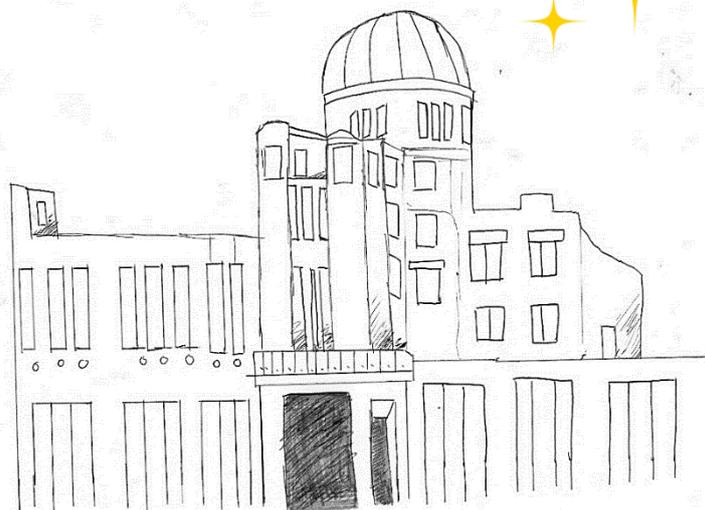


令和6年度

# ピースメッセンジャー

## 広島派遣報告書



国分寺市市民生活部人権平和課

# ／ もくじ

## 《 報 告 》 (学年順 氏名五十音順)

1. 「広島で考えた平和」 国分寺市立第四小学校 5年 井ノ口 涼平 ……1
2. 「平和の町へ」 国分寺市立第二小学校 5年 小林 隼飛 ……3
3. 「原爆の恐ろしさ」 国分寺市立第五小学校 5年 三島 和子 ……5
4. 「戦争をなくすために『知る』ことから始めよう」 国分寺市立第二小学校 6年 佐藤 美空 ……8
5. 「世界平和の実現へ」 国分寺市立第三小学校 6年 宮野 誠司 ……10
6. 「私が見て聞いて学んだ広島」 明星小学校 6年 渡邊 由里子 ……12
7. 「Let's Keep telling it pray for World Peace ～伝え続けよう！ 世界平和のための祈りを～」  
東京都立立川国際中等教育学校  
1年 江口 岬汰 ……15
8. 「広島で学んだ平和」 国分寺市立第一中学校 1年 小倉 瑚晴 ……18
9. 「14万人の悲劇」 国分寺市立第一中学校 1年 片桐 心海 ……20
10. 「ピースのメッセージを日本中に伝える」 国分寺市立第三中学校 2年 小林 大飛 ……22
11. 「世界にとっていい戦争はない」 国分寺市立第一中学校 2年 古林 結伊 ……24
12. 「今を生きる人たちへ」 国分寺市立第四中学校 2年 三島 瑛乃 ……26

## 《 資 料 》

- ◆ピースメッセンジャー広島派遣概要……………28
- ◆日程表(1日目～3日目) ……29～31



## 「広島で考えた平和」

国分寺市立第四小学校

5年 いのぐち 井ノ口 りょうへい 涼平

ぼくは小学校二年生のときに図書館で「はだしのゲン」という戦中戦後の広島を舞台にしたマンガに出会いました。初めて読んだとき、とてもこわくて、現実  
にこんなことが起きたとは信じられませんでした。

それから広島や平和について興味を持ちました。

世界で戦争が起こるたびに「どうして戦争が起きてしまうのか」を新聞で調べたり、両親に聞いたりしています。でも知れば知るほど「平和な世界を作るのは  
むずかしいな」と感じます。なぜなら、それぞれの正しいと思うことが違うからです。

今回はどうやったら平和な世界になるのかをもっと知りたくて、ピースメッセンジャーに参加しました。

広島には原爆の恐ろしさを今でも教えてくれる建物や資料が沢山あり、被爆者の方からは原爆が落とされたあと、あちこちに死体が転がっていたという話や、  
駅に集まった被爆者の方が次々に亡くなっていったという話を聞きました。また、袋町小学校の壁に書かれた家族に向けた伝言を見て、涙がでそうになりました。

でも、資料を見ても、話を聞いても、こんな残こくなことが、今のきれいな広島

の町で起きたことだと、やっぱりぼくには想像ができませんでした。

しかし、今もし原爆が落とされ、ぼくの家族や友だちが一瞬で殺されてしまつたら……。想像するだけで苦しくなります。

今はまだ上手く想像できませんが、ぼくは広島で起きたことを想像し学び続けます。そして、もし自分にも同じことが起きたら……。という想像もし続けます。なぜなら、今も世界中で広島のことを忘れ去られたかのように、核をめぐる争いや戦争がおきているからです。

被爆者の方たちは高れい化が進み、どんどん少なくなっています。いつか、被爆体験を伝えられる人がいなくなってしまうかもしれません。

子どもと被爆した三輪車や階段に残った「人の影」など、沢山の資料と一緒に、ぼくたちは被爆者の方から聞いたことや感じたこと、そして想像し続けることの大切さを日本や世界にずっと伝え続けていかななくてはいけないと思います。そして、それぞれが正しいと思うことをゆずり合って、平和な世界を作っていきたいです。



## 「 平和の町へ 」

国分寺市立第二小学校

5年 こばやし はやと 小林 隼飛

原子爆弾は、1945年8月6日の午前8時15分に落とされ、約14万人の人がなくなってしまった事でした。

まず一日目には、平和記念資料館に行きました。そこで、原子爆弾のおそろしさを、すごくかんじることができました。やけどをした人のしゃしんなど、やぶれたふくがたくさんありました。

その後には、経験した方のお話をうかがいました。その人によると、「とうじは一年生で、兄がいて、学校のあいだでしたので先生にかえりなさいと言われました。家は山の上だったので見えなかったが、ケガ人は、百人ほど山の上に来たので、みんなをたすけることは、できなかった。」と話していました。

さいごに、平和首長会議の説明にさんかさせてもらいました。そこでは、「まだ、世界には、ばくだんは、まだたくさんあります。」と言っていました。

二日目には、袋町小学校平和資料館を見学させていただきました。

そこには、親が子どもをさがしているメッセージや SOS と平和がかいてありました。

学校のこくばんには、いろんな、メッセージがのこされていました。

次には、旧日本銀行広島支店を見学させていただきました。そこには、1945年にあったいろいろなことのしゃしんがありました。

それと、平和の絵などがたくさんありました。次には、本川小学校平和資料館を見学させてもらいました。本川小学校の地下一階には広島のような物がありました。ほかには原爆で、おれたじゅうやガラスのかたまりとたてもののコンクリートのぶひんがてんじされていました。

「ヒロシマ平和の灯のつどい」にさんかさせてもらいました。

中学生の6人は、みんなの前で、ろうそくをもって、高校生のお話がおわったら中学生や高校生のさんかしゃにわけていました。みんながしんげんに話を聞いたのがよかったです。

広島の平和の歌は知りませんが他の人とあわせて歌いました。

原爆のおそろしさを自分でかんじることができて、よかったと思いました。



## 「原爆の恐ろしさ」

国分寺市立第五小学校

5年 みしま 三島 よりこ 和子

原爆は広島と長崎に落とされ、約 24 万人が即死しました。街が一瞬にして廃墟になる恐ろしいものが 1945 年の 8 月 6 日に広島に、9 日に長崎に投下されました。そんな恐ろしい原爆の跡や資料館など、広島で見て思ったことを発表します。

資料館を見学する前、私は戦争で使われている普通の兵器と原爆の威力は同じくらいで、死者も同じくらいだと思っていました。それまでの戦争なら被害に遭う人や夫や子供と離れてしまうといった人はもう少し少なかったと思いますが、見学していくにつれて原爆で亡くなっていった人の数、生き残っても白血病などの原爆病の恐ろしさにおびえながら生きていく人、家族と離れ離れになってお互いが活着ているのかわからなくなってしまった親子など、原爆はけた違いだったということがわかりました。

原爆は、広島の中のほとんどの人も広島以外に住んでいる人たちも悲しませるものだと思います。死体の火葬をしているうちに心をなくしてしまった特攻部隊の人たちもいたそうです。

広島に落とされた原爆は死んだ人も生き残った人も苦しめられました。そんな原爆が日本には2回、行ってきた広島と長崎に落とされました。長崎の方は少し威力が小さかったということですが、同じくらいの人たちが亡くなったり悲しんだりとたくさんのつらいことがあったと思います。そんな中でもあきらめなかった人や人々の光となって活躍した人、残った植物があったことを今回の訪問で知ることができました。

1945年、実はこの2つの原爆が落とされる前にニューメキシコ州のアラモゴートというところで1発目の原爆の実験が7月16日に行われました。その後、原爆の威力を試すためと、戦争を終結させるため、この2つのために原爆が使われました。戦争を終結させる方法は原爆以外にもあったのではないだろうかと思います。戦争で、日本も外国人へひどいことをし、人としてやってはいけないようなこともしました。でも、他の国も同じくらいひどいことをしました。これらの経験から日本は2度と戦争をしないと決断し、今日本では戦争は行われていません。でも他の国、例えばロシアとウクライナなどは昔の日本のように自分勝手な戦争をしています。

私たち日本は戦争をしないと決めたことを貫いてほしいと思います。もしかしたら、この先戦争をしてしまう日が来るかもしれません。しかし、そうならないように私たちが遠い未来まで戦争の恐ろしさや残酷さを語り続けていき、こんなにも

悲惨なことがあったということを広めて、平和がどれだけ良いことなのかということ  
を多くの人に知ってもらいたいと思います。



## 「戦争をなくすために『知る』ことから始めよう」

国分寺市立第二小学校

6年 佐藤 美空

79年前、日本はアメリカに降伏し、戦争が終わりました。空襲や2度の原爆投下で多くの命が失われました。日本ではかつてあった出来事ですが、今も世界中で戦争が絶えません。核兵器の総数は少しずつ減少していますが、保有国は増加しています。平和ではない世界がずっと続いているのです。

私は、今回広島へ行き、平和を実現するには、過去にあった戦争を知る必要があると強く考えました。

広島では、平和記念資料館の展示を見て、被爆者の体験談を聞き、平和への取り組みを学びました。短い時間ではありましたが、平和の大切さを学ぶことができました。特に印象に残ったのは、平和記念資料館の展示です。たった1発の原爆が一瞬で多くの命を奪い、あらゆるものを破壊してしまった光景を目の当たりにしました。そして、今もなお原爆の被害に苦しめられている人々がいます。

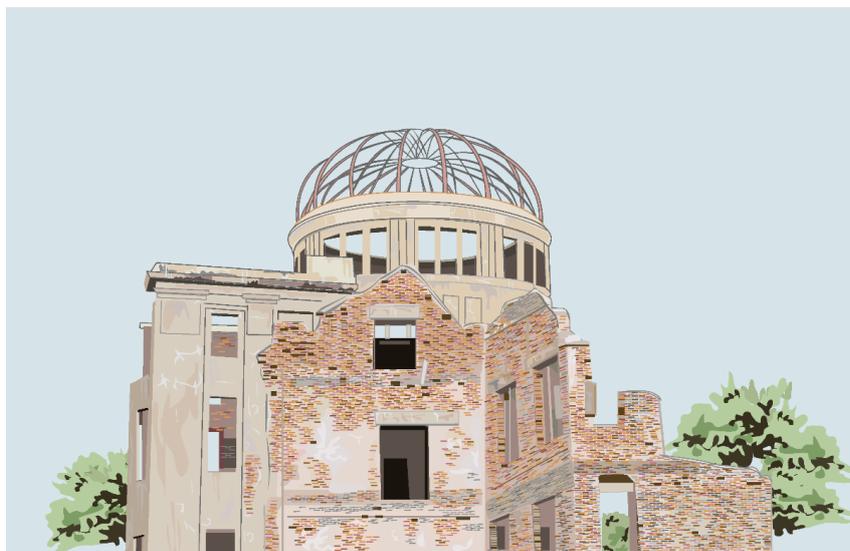
被爆者の方々は、私たちと同じように普通に暮らしていた人たちなのです。ある日突然そのようなことが起こってしまったらどうでしょうか。私は、怖いし、悲しいし、絶対にあってはならないことだと思います。

平和記念資料館は、外国人観光客がたくさんいました。世界各地の戦争がきっかけで、訪れる人も多いそうです。これは、核兵器が再び使用される可能性が高まっていることを示しているのではないかと思います。そのようなことが起こってしまったら、原爆や戦争で亡くなった多くの命、戦後、平和のために努力してこられた人々の活動の意味が失われてしまいます。

日本は唯一の被爆国です。その事実を知っている人は多いと思います。しかし、詳細を知っている人はどれくらいいるのでしょうか。また、その中で平和について声を上げている人はどのくらいいるのでしょうか。今年の広島での平和記念式典で小学生の平和への誓いの中にこのような言葉がありました。

「願うだけでは平和はおとずれません。」

私も平和について考えたときにそう思いました。私たちができることは、歴史を知った上で、平和の大切さについて声を上げることだと思います。



## 「世界平和の実現へ」

国分寺市立第三小学校

6年 みやの 宮野 せいじ 誠司

はじめに、皆さんは、平和と聞くと何を思い浮かべるでしょうか。答えは様々だと思いますが、僕は「みんなが仲良く暮らせること」だと思います。ですが、今、世界中ではたくさんの戦争が起き、平和が十分に保たれていません。僕は、世界平和の実現には、実際に戦争の残酷さを知った人たちが次の世代に語り継いでいくことが大切だと考えます。

広島と長崎に原子爆弾が投下され、終戦を迎えたのは、もう79年前の話です。つまり、戦争を経験した人たちはかなり高齢化しています。そのため、次世代に戦争について語る事ができる人が少なくなっています。そこで、戦争について積極的に知ろうとすること、そして学んだことを、次の世代に伝えていくことが大切だと思うのです。

戦争や原子爆弾についてよく知らなかった僕は、国分寺市の小中学生と一緒にピースメッセンジャーとして広島を訪れました。そして、戦争や原子爆弾について学びました。特に印象に残ったのが、平和記念資料館の見学です。資料館では、広島に残されたぐにやりと曲がった自転車や、ボロボロになった子どもの

服などの遺品、被爆当時のカメラが収めた救護所の患者の写真、被爆者が語る戦争の残酷さや平和への想いなど、すべてが原子爆弾の恐ろしさを物語っていました。また、現・原爆ドームである元広島県産業奨励館は原子爆弾により半壊し、鉄骨をおき出しにして無惨な姿に様変わりしてしまいました。その姿は、原子爆弾の威力を僕たちに伝え、二度と戦争を起こしてはならないのだと語っているように僕は感じました。

2日目の「ヒロシマ平和の灯のつどい」では、広島のパラリンピックの大使の高校生などいろいろな人の話を聞くことで、みんなと一緒に「世界平和を実現したい」という気持ちがより一層高まりました。

大切な命を奪ったり奪われたりする戦争は、悲しみや憎しみを生むだけです。しかし、今起きている戦争などすぐにやめてほしいと願うだけでは何も変わりません。まず、戦争について知ろうとすること、そしてそれを身近な人たちと語り合い、次の世代に語り継ぐことで、みんなが仲良く暮らしていける世界を目指せると思っています。そうやって一人ひとりが力を合わせて、世界平和の実現に貢献することが大事だと、僕は考えます。



## 「私が見て聞いて学んだ広島」

明星小学校

6年 わたなべ ゆりこ 渡邊 由里子

私は、ピースメッセンジャーとして広島に行き、原爆のことを学びました。そして原爆の被害の恐ろしさや、命の大切さと尊さなど色々な事を知りました。

初めに、資料館に行きました。そこには、原爆に被曝し皮膚が垂れ下がっている人達の絵や火傷を負った人達の画像がたくさんありました。その中でも記憶に残っているのは、皮膚や服が垂れ下がっている痛々しい絵でした。他にも被曝して亡くなってしまった人達の着ていた服などを見ましたが、すべてボロボロで破けていて茶色くなっていました。

「助けて！ 水をください。」

動く気力も無い母親の胸にすがる幼児。

「目を開けて、目を開けて」

子供の名前を呼び続ける半狂乱の母親。と書かれていました。これを読んで家族と別れたくなくても別れてしまった人が沢山いたんだなと思いました。その他にも、友達とも別れてしまった人や、友達を助けた人や友達に助けられた人もいます。

次は、そのような体験をされた被爆者の方に話を聞きました。その方は、原爆が落ちた時は、小学生だったそうです。戦争が始まってからは、学校に頭巾を持って登校していたり校庭に防空壕が立ったりしていたそうです。8月6日、空に2機の飛行機が飛んで来て次の瞬間ピカピカッと空が光り砂ぼこりが立ち、みんなが縁側に潜り込んだそうです。周りが明るくなり、外に出たら、周りの家からはけむりが立ち、校舎はボロボロになっていたそうです。今の広島は、ビルが立ちきれいですが、原爆が落ちた時は、全ての建物が、ボロボロになっていたんだなと思ったし、原爆が落ちた後の広島でたくさんの方が亡くなった事を改めて実感しました。

また、とある小学校が、収容避難場所として使われていて、壁には人を探すためのメモや伝言などが、書かれていました。原爆の投下で14万の方が亡くなったそうです。その後私達は、ピースメッセンジャーとして「ヒロシマ平和の灯のつどい」に参加しました。その集いで聞いた俳句が心に残りました。

「原爆が落ちると昼は、夜になり、人は、お化けになる」

というものです。人がお化けになるところがこわいけど、資料館に展示されていた絵を見た後ということもあいまって、認めざるをえなかったのがこわかったです。私達は、ピースメッセンジャーとして原爆の色々な事を学びました。私は広島から帰った後に自分にできることを考えてみました。私が自分でできることは、私は、

実際に広島に行ってきたので、広島で学んだことを親や友達に話して、原爆を許してはいけないという気持ちを広める事だと思います。実際に広島に行ったことのない人でも自分に出来ることを考え、その考えたことを実際に行動に移すことがとても大切です。他人事にとらえないで自分事に考えることが大事だと思います。



# 「Let's Keep telling it pray for World Peace」

～伝え続けよう!世界平和のための祈りを～

東京都立立川国際中等教育学校

1年 <sup>えぐち こうた</sup> 江口 岬汰

## 核兵器廃絶・平和への願い

僕はこの強い思いを現地の人たち、現地の建物からも感じてきました。

うまく言葉で表現することはできませんが、たくさんの方たちの「本気」を感じました。その中でも、原爆ドームはとても大きくて存在感がすごかったです。広島派遣後、長崎原爆資料館・平和公園にも個人的に行く機会ができ、また違った形での平和への祈りを感じることができました。



日本を代表とする場所に行き、様々な思いを感じることができ、原爆の恐ろしさと共に僕自身も今出来ることをしたいと思うようになりました。

二日目の夜に「ヒロシマ平和の灯のつどい」に参加し、そこで冒頭に話した現地の方の「本気」を感じました。また、高校生平和大使の方のお話を聞くことができたことによって、同じ年代の方の活動にとっても大きな刺激を受けました。そのお話からこれからは僕たちの世代が戦争と平和について真剣に考えていくことが重要だと改めて感じました。それは世界恒久平和を実現させるため、二度と被爆国がうまれないように核兵器の廃絶に向けて活動し続けていくことの大切さも知ることができたからです。

その為にもまずは身近な人たちに平和や戦争について発信できるように、自分の意見をしっかりと伝えられるようになりたいです。自分の考えを人に伝える為には、当事者意識・問題解決への意欲・対話的姿勢を持ち、そして何より戦争、平和について伝えたい、未来に語り継いでいきたい、という気持ちを持つことが大事になります。

これは SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) における国際社会共通の目標の中にも示されているように、発展途上国のみならず、先進国も含めて世界全体が取り組む国際目標として掲げられる問題です。まだ、子どもの僕たちにできることは限られているかもしれませんが、伝え続けて

いくこと、未来に繋げる為にできることを考えていきたいと思っています。その為にも、グローバルな視点を大切にして、日本だけではなく、まだ世界各国で起きている戦争等にも目を向けて考えていきながら、自分なりの学びを深めていきたいと思っています。

このような機会をいただけたことに、心から感謝いたします。



## 「 広島で学んだ平和 」

国分寺市立第一中学校

1年 <sup>おぐら こはる</sup> 小倉 瑚晴

1945年8月6日に広島に原子爆弾が投下され、町は<sup>またた</sup>瞬<sup>ま</sup>刻<sup>か</sup>に<sup>つ</sup>壊滅しました。この爆弾により、多くの命が失われ、生き残った人たちも心や体に深い傷を負い、長い間苦しみ続けました。先日、国分寺市のピースメッセンジャーとして広島を訪れることができました。そこでの展示は、原爆が落ちた瞬間だけでなく、その後の人々の苦しみや希望についても詳細に知ることができました。展示された手紙や写真は、私の心に強く残りました。手紙には家族を失った悲しみや絶望、そして未来に対する希望が<sup>つづ</sup>綴られており、写真には壊れた町やその中で苦しむ人々の姿が映し出されていました。それらを見て、戦争がもたらした恐ろしい影響を改めて実感しました。

この訪問を通じて、過去の過ちを繰り返さないために私たちが何をすべきかを真剣に考える必要があると強く感じました。歴史を学ぶだけでなく、その教訓を未来に活かし、平和を守るために積極的に行動することが重要です。平和は私たちの生活にとって非常に大切ですが、それを維持するのは容易ではありません。被爆者の方々が高齢化する中で、彼らの経験を直接聞く機会が減ってき

ているため、私たちはその歴史と平和の重要性を次の世代にしっかりと伝える責任があります。これからの世代が平和の価値を理解し、その大切さを実感できるように努めることが必要です。

広島での訪問では、広島の人たちが平和のためにご<sup>じんりょく</sup>尽力されている姿に深く感動しました。戦争の辛い経験を背負いながらも、平和のために世界にメッセージを発信し続けているその姿勢は、私たち全員が見習うべきです。広島の人々が努力し続ける姿を見て、平和がどれほど大切で、どれほど守るべきものなのかを改めて感じました。私もこの歴史を忘れず、平和のためにできることを考えて実行していきたいと思います。具体的には、地域での平和教育や啓蒙<sup>けいもう</sup>活動を通じて平和の価値を広めたり、日常生活の中で理解と尊重の精神で行動することを心がけたいです。

平和のためにできることは、思ったよりもたくさんあります。小さな行動から始めることが大切で、それが積み重なれば徐々に大きな影響を与えることができると思っています。広島で学んだことを胸に、平和を守り育てるために努力していきたいです。これからも自分にできることを考え、少しずつでも平和のために<sup>こうけん</sup>貢献していきたいと思っています。

ありがとうございました。

## 「 14 万人の悲劇 」

国分寺市立第一中学校

1年 かたぎり ここみ 片桐 心海

みなさんはこの題名にも入っている、この 14 万人という数が何の数字かわかりますか？ これは広島原爆によって亡くなった方の数です。この数は原爆投下の瞬間に亡くなった方と原爆投下日後の約5ヶ月の間に、放射線や、それによる影響などで亡くなった人も含まれています。原爆の中に入っている放射線には、数日から、数年の間にガンや白内障などの障害が起こる危険性があります。なので原爆直後の恐怖におそわれながら、この先の未来で、いつ障害が出るかわからない。という恐怖が同時に迫ってきます。その恐怖は、決して私たちにはわからないでしょう。

それは、私たちが聞いた被爆者のお話から読み取ることができます。私たちが広島で聞いた話は、とても残酷でした。そのお話の中でも、特に印象に残っている内容は、2つあります。1つ目は、原爆が落とされた後、被害が落ち着いた頃に、原爆によって燃えたくずれそうな危ない建物を子供達が縄で巻きつけて、引っばって崩すということです。私の中では、建物を縄で引っばって崩す。という考えなど一切無かったので、とてもびっくりしました。それに、その作業を子供にやらせる

なんて、とてもひっぱくしていたんだと思いました。そして2つ目は、原爆投下後、話をしてくれている被爆者の知り合いの方のお話です。その知り合いの方は小学生のときに被爆されて、その当時は何も症状が出ていなかったそうなのですがしばらく経って、ガンがあることが発覚してそれからの日々、体が悪くて、ズキズキ痛むようになってしまい、生きるのが辛くて、すいみん薬を大量に飲んで自殺してしまったそうです。話し手の被爆者の方が知っているだけでも、同じように自殺してしまった人は2人居たそうです。そしてお話が終わる頃、何度も何度も、被爆者の方が、「戦争は何も良い事が無い。命は大切に。人と人の殺し合いなので。絶対には戦争には反対してください。」と言っていたのが、戦争の残酷さを物語っていると感じて心に深く残りました。

そしてこのような戦争の残酷で戦々恐々とした事実を知って私は日々の生活のありがたさを知りました。そして何より、家族・友達・周りの人によって、この当たり前ではない、充実した生活が送れていることに毎日感謝したいと思いました。

「ありがとうございます。」



## 「ピースのメッセージを日本中に伝える」

国分寺市立第三中学校

2年 こばやし ひろと 小林 大飛

79年前、1945年8月6日アメリカが日本に原爆を落とし日本人はものすごくつらい思いをしながら生きていました。それによって日本人はこれから平和に生きてこれ以上戦争に参加せずほかの国と喧嘩しないようにしています。

今回広島に行って原爆を経験してどれだけつらかったか、どれだけこわかったかどうやってくらしていたかわかりました。あとは平和について学びました。

平和の意味は人によってちがうけど僕にとって平和はみんながしあわせに生きていって戦争がなくてみんながしっかり食べて飲み物を飲めることです。

広島にいる一日目は平和記念資料館に行きその後は被爆体験者の話を聞いて平和首長会議の説明に参加しました。

平和記念資料館では原爆が落とされている写真があったり体にひどいやけどがある人の写真がいっぱいありました。資料館では原爆の熱さによって変形したお弁当箱がありました。あとは少しだけ燃えた中学生の制服があっけきになりました。そのあと被爆体験者の話を聞きました。話を聞いてやっぱり原爆が落とされた数日後でもけっこうつらかったと聞きました。平和首長会議の説明ではこ

の世界をよりよくするためにある会議の話をしました。この日には原爆はどれだけこわいかとたくさんの命が失われたということがわかりました。

こくりつひろしまげんぱくしぼつしゃつどうへいわきねんかん  
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では10分ぐらいのビデオを見て、その動画では当時戦争で特攻隊の方が広島の方に救助に行ったら、やけどした人が「水ちょうだい」と十人ぐらいならんでいましたが、特攻隊の方も水をあげることができなくて、その場で亡くなった人がいたそうです。

その日の夜に「ヒロシマ平和の灯のつどい」に参加しました。このイベントでは79年前の8月6日に死んでしまった人のために黙祷しました。

僕がこのピースメッセンジャーになってから平和はなんで必要なのか、なんで平和が大切なのかと、どれだけ平和が重要なのか学んできました。これからは学校などで喧嘩しないでみんなと仲良く生きていきます。この発表をして少しでもこの世界が良くなるとうれしいです。



## 「世界にとっていい戦争はない」

国分寺市立第一中学校

2年 ふるばやし ゆい 古林 結伊

これから広島に行って経験したことについて話します。

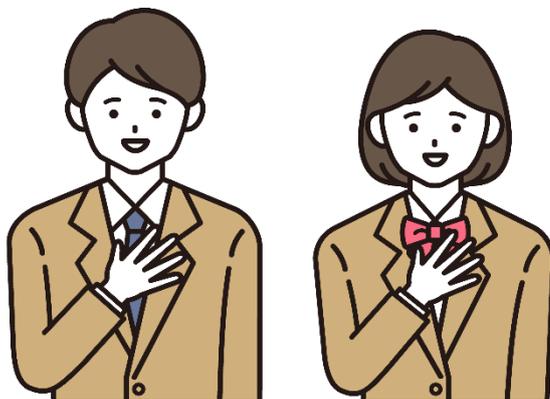
まず私が参加しようと思った理由としては、原爆や戦争についてとても興味があったからです。歴史などで当時の勉強をしていたので、実際に見てもっと理解を深めたいと思い、応募しました。

私が見学した中で、一番印象に残っている場所は、こくりつひろしまげんばくしぼつしゃ国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ついでうへいわきねんかんです。そこでは、よんしきにくはくこうげきてい四式肉薄攻撃艇/マルレという、小型船に爆薬をのせ、てきかんせん敵艦船に体当たりして攻撃する特攻兵器を扱っている、特攻部隊のあかつきぶたい暁部隊の映像を見ました。その基地では被害が少なかったため、被爆者の救護などを行っていたそうです。実際に入隊した人のお話では、周りの状況などが詳しく話されていて、資料館で見たり聞いたりした時と同じくらいの怖さを感じました。映像を見た直後は、現実では到底考えられないようなことだと思いましたが、それが本当にあったと思うと、どんな理由があったとしても戦争は起こしてはいけないということを改めて実感することができました。

次に印象に残っている場所は原爆資料館です。派遣前には、当時の写真は

29枚ととても少ないと聞いていたので、その時のイメージが付きづらいのではないかと考えていました。しかし実際には、写真も被爆した直前はとらえていないものの、その後の様子がしっかりと写されており、被爆者の衝撃的な絵などが多く残されていて、昔の広島の様子がどれだけ悲惨なものだったのか、そして核兵器がどれだけの被害を及ぼしたのかが経験していなくとも伝わってきました。また、被爆した時の人の持ち物を見ていると、どれも元の形とは変わり果てていて、それほど熱や爆風が激しかったのかと衝撃を受けました。

これらのことから、広島の派遣の中では戦争の恐ろしさ、平和の尊さを知ることができました。そして私が一番理解したことは、戦争というのは何もいいものを生み出さないということです。私はなかなか戦争について考えることはなかったのですが、今回のことを通して、私には関係ないと考えることをやめるのではなく、自分事として捉えられるようにしたいです。また、このことをたくさんの人に知ってもらえるよう、周りの人に話すなど、まず自分にできることをする努力をしていきたいと思います。



## 「今を生きる人たちへ」

国分寺市立第四中学校

2年 <sup>みしま あきの</sup>三島 瑛乃

戦争の苦しみ、つらさはもう痛いほどわかっているつもりです。もちろん、当事者の方々の辛さを私が判るわけもないです。私は「そこ」に居ませんでしたから。知った気になり、戦争をなくしたい。苦しめられた人たちの思いを伝えていきたい。そう思っています。ですが私は戦争をなくすことは難しい、というよりできないと思います。そして、よけては通れなかった出来事だと思います。

まず、「戦争はなくすことができない」このことについて話していきます。戦争をなくすことが難しいと考える意見は、多くの人々が共有する現実的な見解だと思います。人類の歴史を通じて、戦争は常に存在してきましたし、私と同じように完全に排除するのは難しいと感じる人も多くいでしょう。戦争というものは人間の本能や社会の複雑な構造、経済的・政治的な利害関係などが絡み合っているため、戦争を完全に根絶するのは非常に困難です。そのため、戦争はなくさなければいけない、二度と起こしてはいけないといっているのはいますが、私たちは人間で争いを生んでしまう生き物です。争いをしたことがないという方が珍しいとも言えます。その争いがいつ起こるかなんて人間誰も分かりません。日本の戦争は、日本時

間という昭和 16 年 12 月 8 日が始まりでした。ですがこの戦争、いつ始まってもおかしくはなかったと思います。そして、もし原爆が落ちなかったら戦争は日本が負けて終わり、という訳にもいかず、また戦争を起こす。なんてことが起きてしまったかもしれません。けどそうはなりませんでした。彼らは学んだから、やってはいけないと理解したから今戦争は日本からなくなっています。私たちは生きています。戦争は人間にとって「よけては通れない出来事」ですが、その出来事について学べる能力を持っていてよかったと改めて思います。

最後に戦争をなくす方法について少し、私は先ほど戦争はなくすことはできないといいましたが、そうでもないのかもしれませんが。ですから、戦争を減らすための努力は続ける価値があります。国際的な協力や対話、教育、経済的な発展などを通じて、戦争のリスクを減少させることは可能です。戦争を完全になくすことができないとしても、平和を目指す努力は続ける価値があります。あなたは どう 思いますか？



## 《ピースメッセンジャー広島派遣概要》

実施日	令和6年7月30日（火）・31日（水）・8月1日（木） 2泊3日
内 容	<p>げんばく 原爆の子の像へ折鶴奉納・原爆死没者慰霊碑へ献花・「ヒロシマ平和の 灯 のつどい」参加</p> <p>広島平和記念資料館・原爆ドーム・本川小学校・袋町小学校見学ほか</p>
宿 泊	<p>ザ ロイヤルパークホテル 広島リバーサイド</p> <p>〒730-0014 広島県広島市中区上 幟 町7-14</p> <p>TEL 082-211-1111/FAX 082-211-1115</p>
集 合	<p>JR国分寺駅 みどりの窓口前</p> <p>7月30日（火）6時30分 <b>時間厳守!</b></p>
解 散	<p>JR国分寺駅 みどりの窓口前</p> <p>8月1日（木）16時（15時30分国分寺駅到着予定）</p>
目 的	<p>○ピースメッセンジャーとして、原爆死没者慰霊碑へ献花を行い、平和の 尊さを考えてみんなに伝えよう</p> <p>○広島平和記念資料館や原爆ドームなどを見学し、核兵器の恐ろしさを肌で 感じよう</p>
持ち物	<p>○必ず持ってくる物</p> <p>しおり・筆記用具・帽子・着替え・汗ふきタオル・雨具・熱中症対策グ ズ（クールタオルなど）・健康保険証のコピー（両面）・生徒手帳（中学 生）・移動用のカバンやリュック</p> <p>※タオル類・洗面バス用品・ドライヤー・ガウンタイプのパジャマ（大 人用）はホテルにあります。</p> <p>○必要があれば持ってくる物（自分で責任を持って管理すること）</p> <p>おこづかい・おやつ・カメラ・時計・携帯電話・充電器・薄手の上着・い つも飲んでいる薬など</p>
服 装	<p>○動きやすい服装</p> <p>○靴は履きなれた運動靴（たくさん歩きます）</p>

## 【日程表】

1日目／7月30日(火)

資料

時間	行動	内容	備考
6:30	集合	国分寺駅 みどりの窓口前集合	
6:49	国分寺駅発	中央線快速で東京駅へ	
7:38	東京駅着		
8:00	東京駅発	新幹線(のぞみ61号:広島行) ☆車内は自由時間です。☆楽しく、静かに過ごしましょう。	
11:15	車内で昼食		
11:57	広島駅着		
12:10	ホテル着	荷物を預けます。部屋には入りません。	
12:33	広島駅発	(広電2号線:広電宮島口行)	
12:49	原爆ドーム前駅着		
13:05	平和記念資料館着	平和記念資料館見学	約90分
14:30	平和記念資料館会議室	被爆体験者講話聴講及び質疑応答	約60分
15:30	平和記念資料館	平和記念資料館見学	約30分
16:00	広島国際会議場	公益財団法人広島平和文化センター 平和首長会議の紹介	約30分
16:49	原爆ドーム前駅発	(広電2号線:広島駅行)	約15分
17:09	広島駅着		
17:30	ホテル着	荷物を持って部屋に入ります。	
18:45	夕食	市長と懇談	約60分
20:00	ホテル着		
21:00	就寝	明日に備えて休みましょう。7時30分起床です。	

## 【日程表】

2日目／7月31日(水)

資料

時間	行動	内容	備考
7:30	起床	洗面・着替え	
7:45	朝食		
9:00	ホテル発		
9:15	広島駅発	(広電2号線:広電宮島口行)	
9:31	原爆ドーム前駅着		
9:40		原爆ドーム	約20分
10:20		国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	約20分
10:40	平和記念公園散策	原爆死没者慰霊碑へ献花、原爆の子の像へ折鶴奉納	約60分
12:00	昼食	市長と懇談	約70分
13:20		爆心地見学	約15分
13:41	原爆ドーム前駅発	(広電7号線:広島港・宇品行き)	
13:46	袋町駅着		
14:00		袋町小学校平和資料館見学	約40分
14:50		旧日本銀行広島支店見学	約40分
15:42	袋町駅発	(広電7号線:横川駅行き)	
15:49	原爆ドーム前駅着		
16:00		本川小学校平和資料館見学	約30分
17:00	夕食		約60分
18:45	原爆死没者慰霊碑前	ヒロシマ平和の灯のつどい	～20:00
20:17	原爆ドーム前駅発	(広電6号線:広島駅行)	
20:36	広島駅着		
20:55	ホテル着		
21:30		感想まとめ	
22:00	就寝	明日に備えて休みましょう。6時45分起床です。	

★メモ

## 【日程表】

3日目／8月1日(木)

資料

時間	行動	内容	備考
6:45	起床	洗面・着替え	
7:30	朝食		
8:00		荷物整理	約60分
9:15	ホテル発		
9:25	広島駅着	お土産を買うことができます。	約60分
10:43	広島駅発	新幹線(のぞみ18号・東京行) 車内は自由時間です。楽しく、静かに過ごしましょう。	
12:00	車内で昼食		
14:33	東京駅着		
14:52	東京駅発	中央線特快で国分寺駅へ	
15:30	国分寺駅着		
15:45	市長あいさつ		
16:00	解散		

★メモ



